

福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 11 月 26 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (11/26 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m ³ /h	22.5	3.6 kPa g	A系： 0.04 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m ³ /h	29.0	4.92 kPa g	A系： 0.07 Vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.06 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m ³ /h	27.5	0.22 kPa g	A系： 0.08 Vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.06 Vol%

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (11/26 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	17.0 °C*
2号機	循環冷却システム	運転中	16.7 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	14.4 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	12.8 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドランジンの注入を適宜実施。

* 使用済燃料プール循環冷却システム停止中のため、至近のデータを記載。

【5号機】・原子炉压力容器内に保管されている使用済燃料の取り出しに向けた原子炉開放作業を実施中だが、当該作業において燃料プール冷却浄化系のシステムを使用して原子炉格納容器および原子炉ウェル内の水張りを実施することから、使用済燃料プールの冷却を以下の日程において一時停止。

11/25 10:28 使用済燃料プール冷却浄化系を停止。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 18.3°C。

16:42 作業が終了したことから、使用済燃料プール冷却浄化系を起動。運転状態について異常ない。使用済燃料プール水温度は 18.9°C であり、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題はなかった。

11/28(予定) 停止予定時間：約 15 時間

なお、5号機使用済燃料プール水温度は、11/21 16:00 現在で 18.8°C、冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.186°C/h であり、停止中の使用済燃料プール水温度上昇は 11/28 が約 3°C と評価されることから、運転上の制限値 65°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題ない。

【1号機】・11/26 6:10 循環冷却設備電気品の点検を行うため、使用済燃料プール循環冷却システムを停止。冷却停止時の使用済燃料プール水温度は 17.0°C。

16:22 作業が終了したことから、使用済燃料プール循環冷却システムを起動。運転状態について異常ない。使用済燃料プール水温度は 17.0°C であり、停止時の温度と変化はなく、運転上の制限値 60°C に対して余裕があり、使用済燃料プール水温度の管理上問題はなかった。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→	3号機タービン建屋	11/13 15:07 ~ 11/26 9:25 移送実施
		→	集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	11/26 10:23 ~ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋[高温焼却炉建屋])	11/5 16:14 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/26 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	運転中*1	運転中*1	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- H26/1/29~ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびパッカー挿入の作業を開始。
4/2~ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
7/28~ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
8/12~ ドライアイスを追加で投入開始。
10/16~11/6 2号機海水配管トレンチ開削ダクトにて間詰め充填工事を実施。
10/20~11/2 2号機海水配管トレンチ立坑Aにて間詰め充填工事を実施。
11/17 9:39~15:22 グラウト充填工事に先立ち、凍結止水の効果確認、2号機タービン建屋と立坑の接続部の連通性確認および2号機海水配管トレンチ内への地下水流入確認を実施するため、2号機立坑Cから海水配管トレンチ内の滞留水を集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)に移送を実施。移送中および移送後の状況については、漏えい等の異常がないことを確認。
11/25~ 2号機海水配管トレンチの閉塞を目的とした閉塞材料の充填作業を開始。なお、閉塞材料の充填作業により、当該トレンチの水位上昇が予測されることから、福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画に定められている、運転上の制限(OP+3.5m)を超えないよう管理し、当該トレンチ内の滞留水を必要に応じて2号機タービン建屋へ断続的に移送。
- H26/3/14 13:35~ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
6/2~ 凍土遮水壁工事を開始。
10/3~ 凍土遮水壁造成工事における凍結管設置に伴い、埋設物(トレンチ等)を貫通させて凍結管を設置する箇所を対象に、事前の溜まり水調査を開始。
- H26/8/29 12:45 頃 3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材(鉄板高さ30cm程度)と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。
なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

<使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:11/26)>

- セシウム 134: 2.5×10^2 Bq/cm³
- セシウム 137: 8.3×10^2 Bq/cm³
- コバルト 60 : 1.5×10^0 Bq/cm³

- ・H26/10/22 ～10/29 1号機原子炉建屋カバー解体作業における放射性物質の飛散抑制対策の一環として、当該カバー屋根パネルを取り外す前に同パネルに孔をあけ、飛散防止剤を散布する作業を実施。
当該作業期間中、各ダストモニタおよびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。
 - 10/31 オペレーティングフロアの瓦礫調査およびダスト濃度調査等を実施するため、建屋カバー屋根パネル2枚(南3・北3)の取り外し作業を行うこととしており、1枚目(南3)の取り外し作業を実施。
 - 11/10 8:31 屋根パネル2枚目の取り外し(吊降ろし)作業が終了。当該作業期間中において、ダストモニタの濃度およびモニタリングポストの指示値に有意な変動はなし。
 - 11/20～ 瓦礫撤去計画策定に向けたオペレーティングフロアの調査等を実施中。
- ・H26/11/27～ 1～4号機山側トレンチから建屋内に地下水流入の可能性のある建屋接続部について、地下水流入有無の調査を開始予定。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。(No.11 は藻のような生物を汲み上げた原因調査のため、10/15 より停止中)

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

- < H4エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < 福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- < H6エリア周辺のサンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

- < 地下水観測孔サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- < 地下貯水槽サンプリング実績 >
 - ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上